

東谷山山スキー報告

【山城】谷川連峰・東谷山（1553.8m）

【日時と天気】2017年3月11日（土）曇り時々雪・一時晴れ

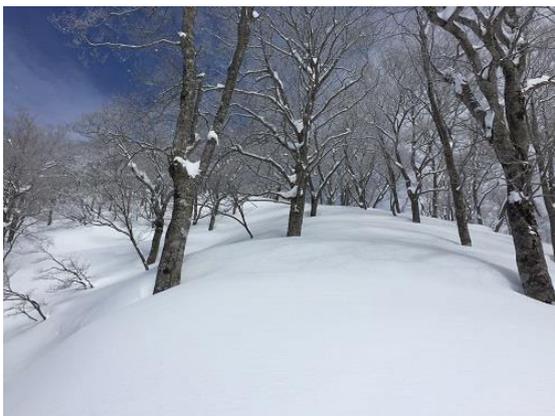
【メンバー】CL菊池・渡辺（俊）・吉川・庭田・鈴木（忠）・会員外3名

【行程】湯沢ICーセブンイレブンで合流ー貝掛温泉入口・国道除雪スペースに一台デポー一二居・宿場の湯脇の除雪スペースに駐車 8:30 頃ー地王堂川沿い道路ー東谷山南作業道（?）ー南尾根ー稜線ー11:45 東谷山山頂ー北斜面標高差 150m滑走ー東谷山山頂ー北西斜面滑走ー14:35 貝掛温泉一車回収ー帰葉



・3月11日、4年ぶりに東谷山に8名（TM4名、AT4名）で行ってきた。NBSC（新潟バックカントリークラブ）・船山などとの混成メンバーが湯沢IC近くのコンビニ集合、一台を下山地点の貝掛温泉入口の国道脇の除雪スペースにデポし入山口の宿場の湯脇の除雪スペースに向かった。2009年に初めて東谷山に入山した時はまだ、このパウダーエリアは知られてなく、マル秘エリアであった。その後、満足度抜群のブナ林パウダーツリーランエリアとして、あっという間に有名になり、週末は多くのBC愛好家で賑わっている。

・殆どの入山者は二居峠・細尾根経由の登山道ルートで登るが、小生も一回経験したが、嫌らしい細尾根への乗り上げなどがあり、わが会のルートは地王堂川沿いの道を進み、東谷山の南面にある作業道【?】をかなり上部まで進み、最終的に頂上への稜線に向かう尾根に乗り上げ、標高差 200mほどで稜線に達するルートを選択する。今回を含め他の3回はこのルートで登ったが、尾根への乗り上げが少し苦勞するが概ね楽なルートであり、登山道ルートとほぼ同じくらいの時間で山頂に到達できる。尾根に乗り上げると直素晴らしいブナ林です。新雪が 30 cm前後、先行者のトレースがあり、天気も好転してきてルンルン気分でやや急なブナ林をハイクアップした。



稜線に達すると登山道ルートで登ってくるグループも多く、頂上はかなり賑わっている。頂上は標高 1553mと低いが、滑走ルートがブナ林の北西斜面のため上質のパウダーツリーランが堪能できる。パウダーの旬は1月末から2月一杯であるが、今回は数日前から降雪があり、今シーズン最後のパウダーツリーランを狙ってこの時期に入山した。寒気が残り天気は不安定、一時的に晴れ間が広がったり、雪が舞ったり、頂上に到達したころには好転しテンションアップである。

滑走準備をしながら行動食休憩、日白山への稜線が見える。縦走してみたい！！ 山頂付近は雲がかかっているが平標が見え、そこまで残雪期に1泊2日の縦走は人気があるらしい。滑走準備が終了し記念撮影。





・まずはノートラの北斜面を標高差 150mほど滑走、ブナ林と言えども 30 度を超す部分もあり、雪崩もありうる。やや硬い部分が 40~50 cm下にあるが結合は良さそうである。慎重に滑走、やや重のデープパウダー、深い所は膝パウである。急な深雪の登り返しはやや難儀した。昨年から湯沢在住のSさん、スプレーを蹴散らし急斜面に飛び込んだ。Wさんのテレターンを後ろから撮影。



・登り返して頂上で行動食休憩後、いよいよ貝掛温泉まで標高差 800m歩ブナ林大滑走、かなりの先行者のシュプールがあるが広大なブナ林。左方向にやや迂回しノートラの滑りやすい斜面にIさんもテレターンを決めています。急なところは35度を超える部分もあり、下部に行くに従い湿雪で重く、皆さん苦労していた。深い所が膝上の深さであった広大なブナ林は沢に収れんするようにフェイナレーレに近づいてきた。名物の国道下のトンネルを苦労して通過し車デポ地まで一滑りしフィニッシュした。来年はパウダーの旬の時期に来たいね！！

